

令和8年度第1回松山都市圏都市交通マスタープラン検討協議会

協議会での活動内容について

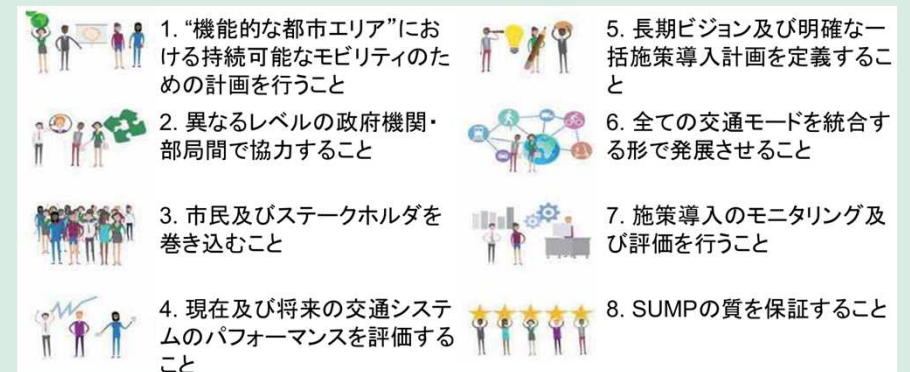
1. 協議会設立の目的

- 松山都市圏では、急速な人口減少・高齢化の進行に伴い、従来の「**需要追従型を基本とした都市機能や交通体系**」から「**人口密度、土地利用、交通サービス水準および行動変容を踏まえたあるべき将来像を見据えた都市機能や交通体系**」を検討する必要がある。
- 検討にあたっては、「**持続可能な都市交通計画(SUMP)**」の考え方を取り入れた都市交通マスタープランの策定を行う。
- 策定においては、持続可能な松山都市圏に向けて、**将来的にも住民生活や移動等において一定の水準を確保**するために**必要な都市交通施策を幅広く検討**していく。
- これらの検討にあたっては、学識経験者、交通事業者、行政等の**関係者が将来像や課題認識を共有し**、合意形成を図りながら進めていくことが不可欠である。
- このため、「協議会」「技術検討会」「勉強会」の組織体制のもと、持続可能な松山都市圏の将来像について検討を行う場として、本協議会を設立する。

参考:「持続可能な都市交通計画(SUMP)」とは

- 持続可能な都市の実現に向けて、生活の質(QoL)やアクセシビリティの向上を目指し、まちづくりや交通、土地利用等を一体的に捉えた計画
- 計画では、都市機能や交通サービスと土地利用や人口密度を連動させる等により、幅広い都市交通計画を検討
- 計画の実効性を高めるため、行政、交通事業者、市民などの関係者が参画し、役割分担を明確にしながら施策の実現を図る

※SUMP(Sustainable Urban Mobility Plans)



▲ SUMPを策定する上での概念となる8つの原則

2. 協議会の概要

• 協議会の目的

- 今後、急速な人口減少及び高齢化が見込まれる松山都市圏(松山市、伊予市、東温市、松前町及び砥部町)において、将来のあるべき都市構造を見据え、都市空間の新たなにぎわい創出に資する集約型まちづくりと一体となった都市交通政策及びその推進体制について広域的に検討し、長期的な視点に立った都市交通マスタープランを策定することを目的とする。

• 協議会のねらい

- 持続的な松山都市圏の都市交通施策の在り方について、都市計画(土地利用等)、交通施策(公共交通・自転車・徒歩・道路交通)の「ベストバランス」を関係者間で検討する。
- 都市計画・土地利用に応じた都市機能や交通サービスの将来的な在り方(サービス水準)について、現状との整合性をとらまえつつ検討を進める。
- これらを通じて、松山都市圏の「望ましい将来像」における集約型まちづくりと連携した都市交通網の形成やモビリティ・マネジメント等の施策の展開を図る。

• 令和8年度の活動内容

• 協議会の設立(本日)

- 関係市町や交通事業者、その他ステークホルダーの共通認識の醸成に向けた勉強会の開催
- 次世代都市交通マスタープラン(概ね20年後の将来像)の検討に向けた議論
- 必要な都市機能やサービスレベルの案
- 将来を見据えた場合の課題整理と今後の方向性 等

3. 組織体制(案)

- 松山都市圏都市交通マスタープランの検討にあたり、協議会・技術検討会・勉強会を設置。
- 本検討は分野が多岐にわたることから、分野ごとの勉強会を実施し、共通認識の醸成や持続可能な松山都市圏の将来像に関する共通認識を持つことを目指す。

【協議会・技術検討会】

- 策定検討、方向性共有の場として協議会を設ける
- 協議会には計画の専門的検討の場として技術検討会を設ける

協議会
(策定機関)

技術検討会
(実質協議機関)

【勉強会】

- 協議会とは別に、多くの関係者の意見を聞きながら、方向性の検討や共通認識の醸成を図るため勉強会を設ける

勉強会
(役職関係なく誰でも参加可能)

4. 策定までのロードマップ(案)

- 松山都市圏都市交通マスタープラン策定までのロードマップ(案)は下表のとおり。
- 持続的な松山都市圏の実現に向けて、令和8年度から令和10年度の3か年で関係者間での共通認識の醸成や合意形成を図りながら松山都市圏都市交通マスタープランを策定する。

	令和8年度			令和9年度				令和10年度
	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	
現況整理								
将来見込みの検討								
想定される将来シナリオの検討								
都市交通課題の整理								
基本的な方針目標の検討								
施策・事業の検討								
評価軸（KPI）の検討								
都市交通MPの作成								
協議会・技術検討会（★） 勉強会（◆）	★	◆◆◆★	◆★	◆★	◆★	◆★	◆	★

5. 令和8年度の協議会・技術検討会・勉強会のスケジュール(案)

- 令和8年度の協議会・技術検討会・勉強会のスケジュール(案)は以下のとおり。
- 令和8年度においては、関係者間で共通認識の醸成を図るとともに、将来見込みや将来シナリオ等の持続可能な松山都市圏のストーリーを検討する。
- また、これらを踏まえ、持続可能な松山都市圏に向けた都市機能や交通サービス等の課題を検討する。

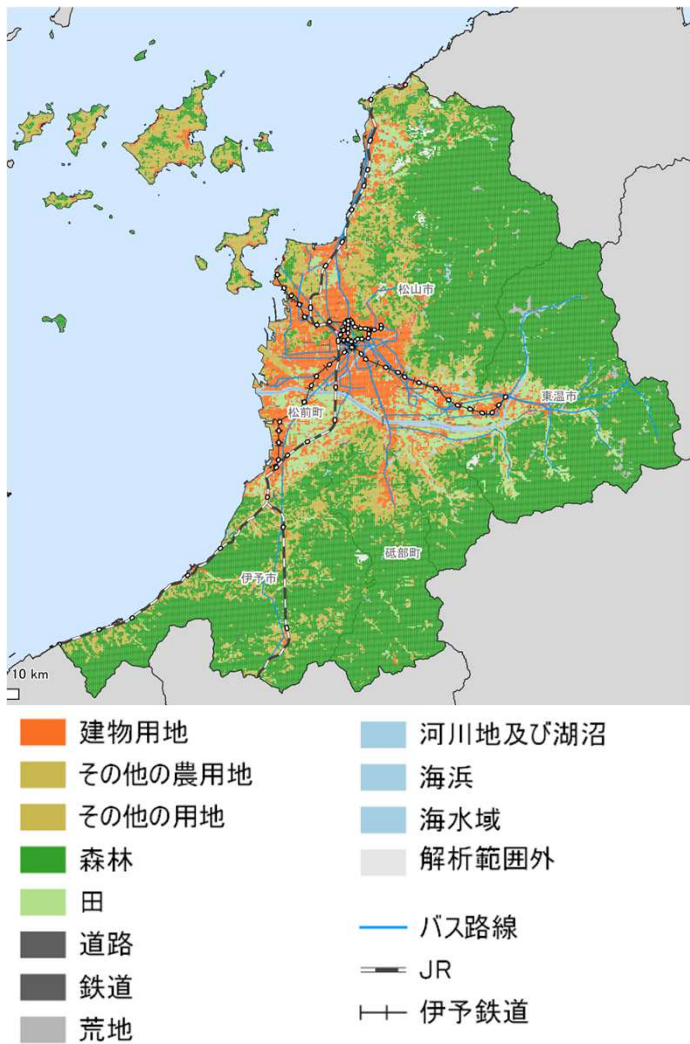
会議名	時期	内容
第1回協議会	9月17日(本日)	・協議会設置要綱について ・協議会での活動内容について
第2回協議会・技術検討会	12月頃	・将来見込みと将来シナリオの検討
第3回協議会・技術検討会	2～3月頃	・都市機能や交通サービス等の課題の検討 ・年度成果の共有 ・次年度に向けた方針

会議名	時期	内容
第1回勉強会	10月頃	・事例紹介や各市町の課題について
第2回勉強会	11月頃	検討中
第3回勉強会	12月頃	
第4回勉強会	1月頃	

6. 現状整理の方向性(現時点案)

- 各市町、事業者様から提供いただいたデータや、オープンデータになっているものについて、以下のとおり整理することを想定。

▼分析例:土地利用状況(出典:国土数値情報)



大分類	テーマ	活用データ	整理方針
地域概況の整理	人口動態	・ 国勢調査、社人研推計	・ 人口の推移、高齢化率の推移、自治体別人口分布を整理
	土地利用	・ 国土数値情報	・ 都市圏全体の土地利用状況をGISで整理
	施設立地状況	・ 大店立地法届出データ、学校や医療機関等のデータ	・ 市町を跨ぐ移動がみられる大規模施設の立地状況をGISで整理
上位・関連計画の整理	総合計画	・ 総合計画、第3期まつやま圏域未来共創ビジョン	・ 基本理念・目指す将来像・関連施策を整理
	立地適正化計画	・ 立地適正化計画	・ 都市機能誘導区域・居住誘導 ・ 区域の設定状況をGIS等で整理
	交通・環境関連計画	・ 地域公共交通計画、都市・交通総合戦略、自転車活用推進計画等	・ 問題点・課題、施策を表形式で整理
都市交通施策の現状整理	移動の状況	・ PT調査、国勢調査、人流データ等	・ 通勤・通学流動、圏域内外(交通軸単位)の移動状況、小地域単位の移動実態を整理
	交通事業者の運営状況	・ 事業者からのデータ等	・ 利用者数・運行状況・旅客運送収入・設備投資状況・移動円滑化対応状況を整理
	公共交通到達圏の分析	・ GTFSデータ等	・ 公共交通軸別の到達圏を分析

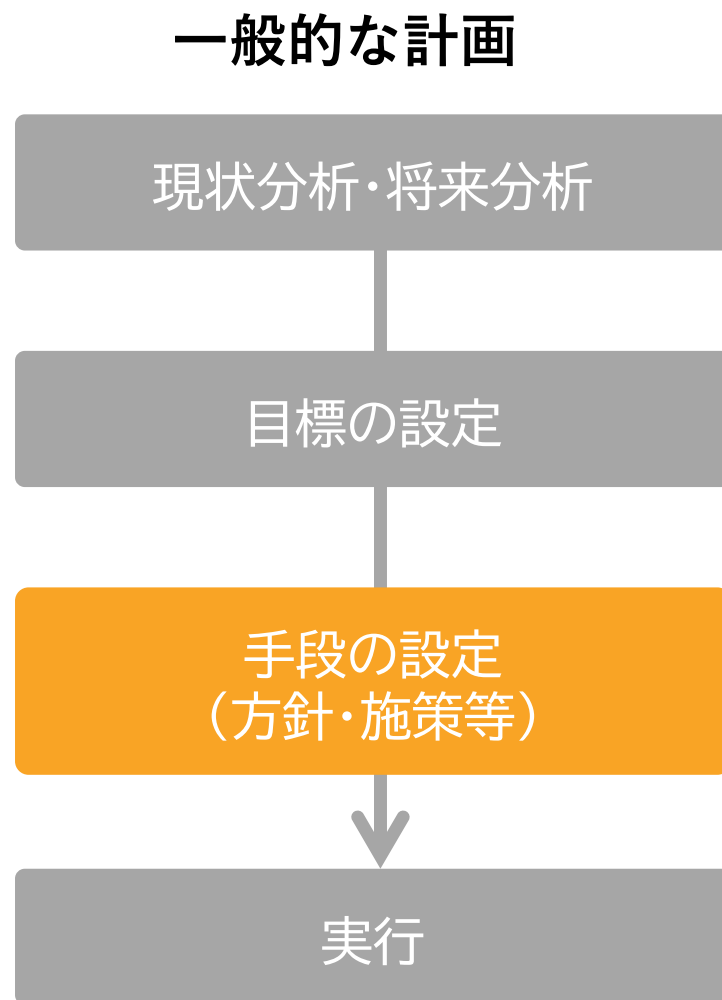
GIS:Geographic Information System 地理情報システム
GTFS:General Transit Feed Specification 公共交通機関の時刻表とその地理的情報に使用される共通形式を定義したもの

7. 将来シナリオの方向性(現時点案)

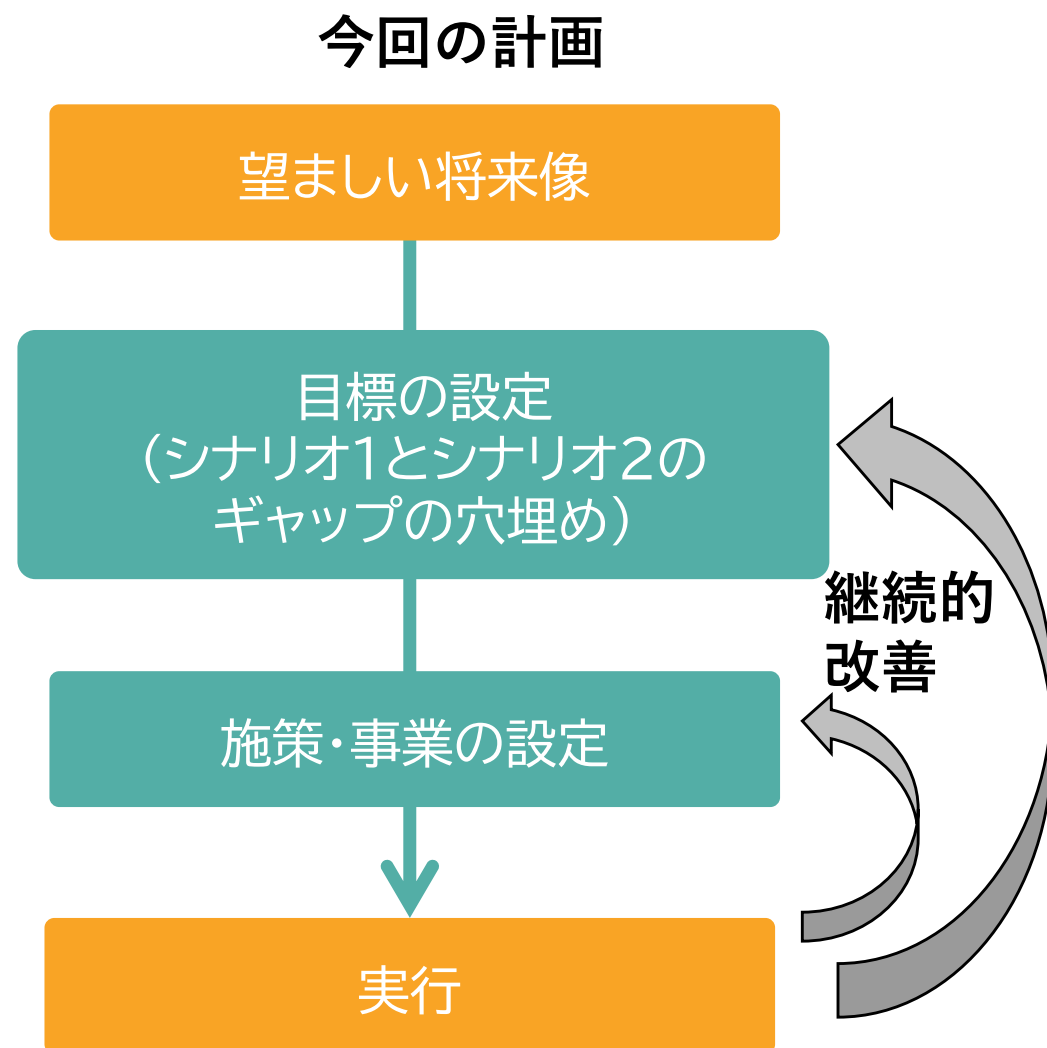
- 将来シナリオは、シナリオ1:現状すう勢(何もせず悪化する将来像)とシナリオ2:望ましい将来像(持続可能な都市の将来像)を検討。
- 今後、勉強会や協議会にて、望ましい将来像の具体的なイメージのすり合わせや、誰が・何を・どのように取り組むかを議論。

項目	シナリオ1：現状すう勢	シナリオ2：望ましい将来像
目的	人口減少や市街地の低密度化、公共交通利用者の減少等が進行した場合に想定される松山都市圏の都市機能、交通サービス及び生活環境の変化を示すことで、何も対策を講じない場合に生じ得る問題を明らかにし、関係者や住民と危機感を共有する	持続可能な都市圏の将来像を示した上で、その実現に向けて松山都市圏として目指す都市機能、交通サービス及び生活環境のあり方を明らかにし、必要となる施策や関係者間の役割分担について議論・共有する
2060年の姿	何もせず悪化する将来像 - 低密度化 - 公共交通の更なる利用者減 - 行政サービスの低下 - 生活利便性の低下	持続可能な都市の将来像 - 拠点と沿線への集住 - 公共交通の利用促進 - 行政サービスの維持・向上 - 生活の質や地域活力の向上
対応策	—	- 公共交通沿線地域等を中心とした住居・企業・各施設等の集積 - 中心市街地、郊外拠点等の賑わい創出 - 自転車・公共交通の日常利用の定着 - 松山中心部と周辺都市との交通ネットワークの充実 - 道路や空き家など都市基盤の有効活用 - 圏域外からの交流人口の拡大

8. 松山都市圏都市交通マスタープランとは



現状を分析し、
問題を解決するための**手段**に
力を入れてきた



望ましい将来像を描き、
その実現につながるように、
実行しながら継続的改善に取り組む